

### 3 県中北部地域に適したブルーベリーの品種選定

#### ねらいと成果

ブルーベリーは比較的病害虫の被害が少なく、また樹高があまり高くないことから、収穫時以外の栽培管理は比較的容易な樹種である。また、近年ブルーベリーの健康食品としての評価が高まる中、県内特に中北部地域において観光果樹園や農業公園などの各種観光施設では、ブルーベリーの導入が進んでいる。しかしながら、ブルーベリーの品種はかなりの数に上り、どの品種を導入するかが大きな課題となっている。

そこで当センターでは、ハイブッシュ系6品種とラビットアイ系2品種のブルーベリーについての収量及び果実品質を調査した。その結果、ブルーレイ、ブルークロップ、ハーバート、パークレーは1樹当たりの収量が多く、しかも収穫始めの果実重も大きいことから優れた品種であることが明らかとなった。

#### 内 容

ハイブッシュ系6品種とラビットアイ系2品種について収穫期間、収量及び果実品質を調査した。ラビットアイ系の樹齢は5年生で、それ以外の品種は15年生であった。

#### 1 収穫期間

ハイブッシュ系は早い品種で6月下旬から収穫が始まり、遅い品種でも7月上旬からであった。一方、ラビットアイ系の2品種は7月下旬からの収穫開始であった。収穫期間はコリンズで約2、3週間、それ以外の品種では4、5週間であった。収穫最盛期は、コリンズで6月下旬から7月上旬、他のハイブ

ッシュ系品種では7月中旬であった。ラビットアイ系の収穫盛期はハイブッシュ系よりも遅く、8月上旬であった(表1)。

#### 2 収量及び果実品質

ブルーベリーの場合、収穫始め頃に果実が最も大きく、収穫の終わりになるにつれ果実が小さくなる傾向がある。ブルーレイ、ブルークロップ、ハーバート、パークレーは収穫始めの果実重が1.8~2.0g程度で比較的大きかった。これら4品種の糖度はやや低く8.8~9.5度であった。

一方、比較的果実が小さいとされているラビットアイ系の2品種の果実重は、大きい時で1.3g程度であったが、糖度は今回調査した品種の中では比較的高く12度程度であった。但し、ラビットアイ系の2品種は酸味が強い傾向であった。

1樹当たりの収量についてみると、収量の多い品種は前述の果実重の大きな品種と一致し、ブルーレイ、ブルークロップ、ハーバート、パークレーであった(表2)。

以上の結果から、生食だけでなく加工も目的とした場合、収量が多く、果実重が大きいこれら4品種が適していると考えられた。

#### 普及上の注意事項

ハイブッシュ系では自家結実性が比較的高く、1品種でも結実するが、安定した収量を得るには混植する必要がある。

松浦 克彦(北部農技・農業部)

表1 ブルーベリーの収穫期間(2000年、北部農技)

品 種 名	系 統	収 穫 期 間	収 穫 最 盛 期
コリンズ	H	6/28~7/12	6/28~7/12
ジャージー	H	6/28~7/31	7/10~7/17
ブルーレイ	H	6/28~8/2	7/10~7/17
ブルークロップ	H	6/28~8/2	7/10~7/17
ハーバート	H	7/3 ~7/31	7/12~7/17
パークレー	H	7/7 ~8/2	7/12~7/19
ホームベル	R	7/21~8/25	8/7~8/14
ティフブルー	R	7/21~8/25	8/11

注)系統：H(ハイブッシュ系)  
R(ラビットアイ系)

表2 ブルーベリーの収量と果実品質(2000年、北部農技)

品 種 名	果 実 重 (g)		糖 度 (Brix)	収 量 (kg/樹)
	収 穫 始	収 穫 終		
コリンズ	1.5	0.8	10.7	5.9
ジャージー	1.0	0.6	10.9	4.0
ブルーレイ	2.1	0.9	8.8	7.0
ブルークロップ	1.8	1.0	8.9	8.0
ハーバート	1.8	1.2	9.5	5.7
パークレー	2.0	1.1	9.7	6.6
ホームベル	1.3	1.0	12.1	4.8
ティフブルー	1.3	1.0	12.2	3.1